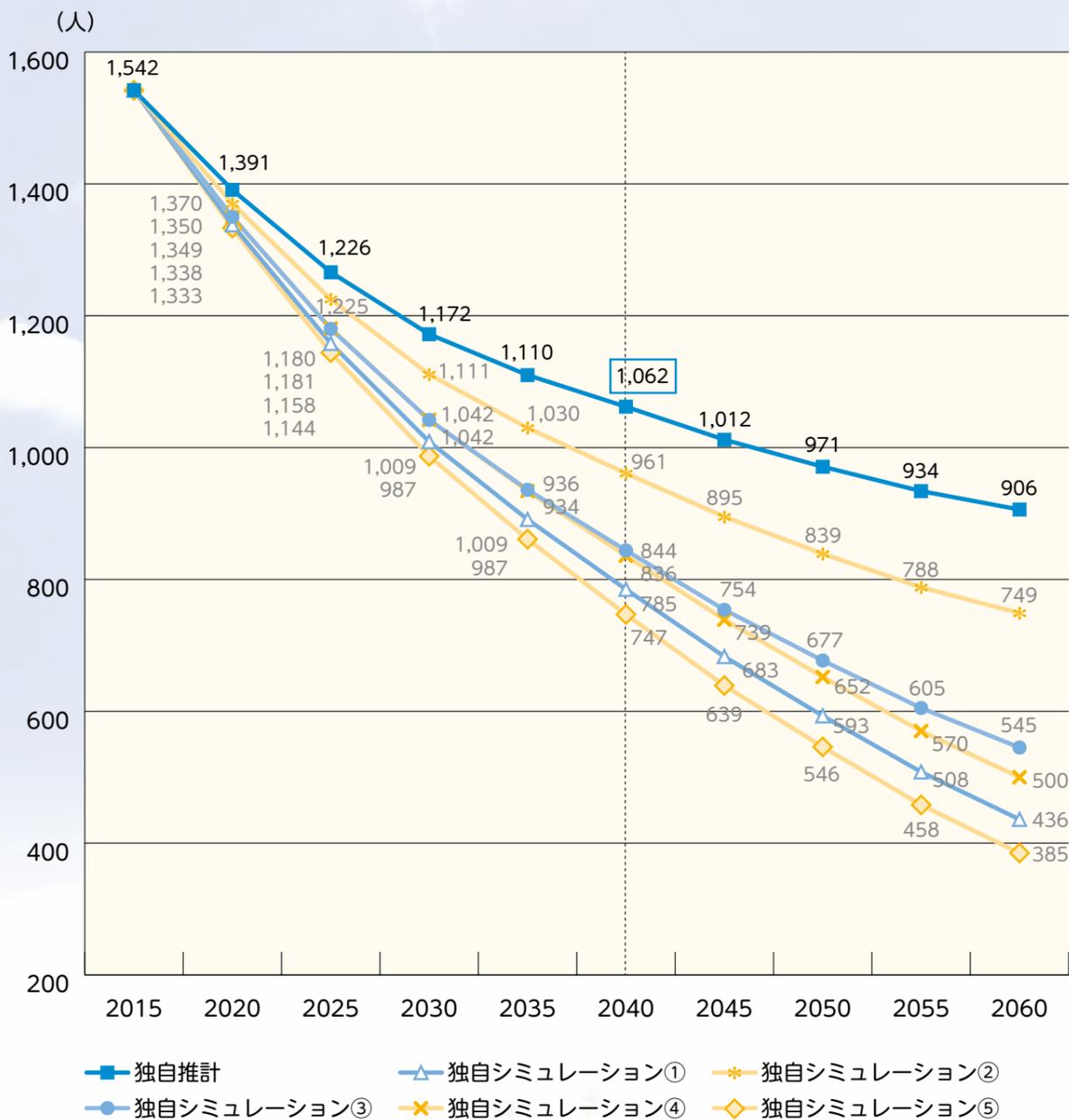


【独自シミュレーションによる総人口推計比較】



4

長期的ビジョン

人口減少を緩和し、高齢者になっても元気に安心して暮らすことができる町づくりを目指します。これまでの分析結果やアンケート調査(注1)結果を踏まえ、以下の取り組みを長期的に行うことが必要であると考えます。

(注1) 町内に居住する19歳～39歳の方217人と、町内の中学生以上の学生98人を対象にアンケート調査を行いました。

◆若い世代の結婚・出産・子育て応援

人口減少に歯止めをかけるためには、次世代を担う若年層の増加が重要です。

アンケート調査によると、将来結婚したいと考えている人は全体の58・8%で、そのうち20～24歳の割合は78・9%となっています。また、希望出生率(注2)については、

本町は1・77となつています。若い世代が望むこれらの希望を実現させるため、出会いの場の拡大や雇用の創出、子どもを安心して産み育てられる環境づくりが必要です。

(注2) (国民) 希望出生率(有配偶者割合×夫婦予定子ども数+独身者割合×独身者のうち結婚希望者×独身者の希望子ども数)×離死別等の影響

◆雇用、新たな人の流れの創出

少子化が進む要因の一つは、若者世代、働き盛りの世代が町内に残りたいと考えていても、町内には希望する就業先がないことです。

学生を対象にしたアンケート調査によると、将来七ヶ宿町に「戻りたい」と回答している学生は79・5%にのぼる一方、就職については町外での就職を希望する傾向にあり、その理由としては「就職したい企業が七ヶ宿町内にな

いから」(43・2%)となつています。

若者世代の町内への定着及び町外からの移住を促進していくうえで、生活の基盤である雇用問題は避けて通れません。特産品開発等による雇用の拡大、森林再生による新事業の創出など本町の資源や特徴を活かした雇用の創出が重要です。

また、雇用創出に加え、交流拡大と定住支援に向けたUIJタウンの情報発信、住宅環境の整備を行うなど、総合的な対策で人口増加に注力していくことが不可欠です。

◆魅力的な生活環境づくり

本町は、宿場町の歴史を持つ、自然豊かな水源の町です。アンケート調査では、91・7%の人が七ヶ宿町は「自然環境に恵まれている」と回答しています。それに続いてポイントが高い「犯罪の少なさ」(90・4%)、「子育ての

るなど日常生活に支障が出る」と予想されます。人口減少への対応は時間を要するものです。長期的な視点に加え、有効的な対策を早期に講じることが必要です。本町は住民の皆様をはじめ、関係機関、民間企業等、町内のあらゆる方々に協力をいただきながら、人口減少対策に取り組んでいきます。



しやすさ・地域での人間関係」(67・1%)という本町の魅力は、子育て世代のみならず、町に暮らす全住民にとって、安心して暮らしていくための重要な生活環境の要素とされます。

今後は、地域コミュニティのそれぞれの魅力を引きだしていくとともに、地域と地域を連携させ、住民が手を取り合って暮らせるような、魅力ある生活環境を形成していくことが必要です。

町の暮らしにくさについては、「買い物など日常生活が不便」(66・7%)、「冬の除雪が大変」(31・0%)などがアンケートで挙げられていますが、利便性に配慮した定住環境の整備や外部人材の積極的な活用を行うことで、より住みよい町を目指していきます。

具体的な取り組みについては、別に策定する「ふるさと創生総合戦略」に盛り込んでいきます。